

子どもたちとの出会いは、偶然であるが必然でもあると言います。その出会いが、一生の関わり、一生の絆となるように、子どもとの信頼関係をはぐくんでいきたいものです。

入学式後の出会い、学級替え後の出会い、同じ子どもたちとの再会。いずれもゼロからのスタートという新しい気持ちで、明るくさわやかな表情や姿での出会いを大切にしたいものです。



## ＜小学校＞

### 「学級開き」で「開かれた学級」を宣言

一日の学校生活のうち、ほとんどの時間を学級担任と児童が同じ教室で過ごす小学校。

最初の出会いは緊張のうちに終わり、徐々に慣れてくるに従って、担任の先生が大好きになる児童もいれば、担任の先生はちょっと苦手…という児童も当然でてくることも予想されます。

「みなさんが困ったとき、相談できるのは自分（担任）だけではありません。隣のクラスの〇〇先生、保健室の〇〇先生、教頭先生、校長先生だって相談にのってくれるよ」と宣言することで、子どもたちは「学校中の先生方から見守られている」安心感を得ることができま

す。「このクラスは自分が責任をもって…!」という気概とともに、職員全体で子どもたちを支えていくチーム支援体制を、職員側も年度当初に確認しておくことが大事です。



### 4月は関係づくり、集団づくり

#### ◆校外に出て活動してみましょう

教室では見えない一面や興味関心があることなど、その子らしい姿が見えてきます。子どもたちの中に、学級づくりの芽がたくさんあります。

#### ◆きまりや係を子どもと共につくりましょう

学級づくりの主人公は子どもです。「先生、どうしたらいい？」こんな声が聞こえればチャンスです。子どもに返してみましょう。係活動も、必要な係を自分たちでつくることから始めます。

#### ◆短学活を工夫しましょう

短時間でも毎日ある貴重な時間。今日のいいところ見つけ、サイコロトークで全員が一言など、隣のクラスの工夫に学び合きましょう。

#### ◆プロセスを大切に、学級目標をつくりましょう

子どもたちや学級の状況を見極めて取り組みます。いつも立ち返る学級の指針です。熟議方式も取り入れるなど、一人一人の思いを知り合う場、十分に話し合いができる場を設けます。

## ＜中学校＞

### 出会いの感動を大事に（学級を開く）

入学式後の最初の学級指導では、担任の先生がどんな先生なのか、期待と不安で一杯の生徒と保護者に安心感をもたせるチャンスです。

#### 1 出会いを感動的なものに

生徒一人一人の名前を呼びながら、笑顔で「よろしく」と握手をして回る先生もいます。出会いは、教師自身のよさが伝わるように工夫をしたいものです。そのときの温かな視線や表情、言葉かけ、所作で保護者に伝わることも多くあります。

#### 2 担任の願いや方針で希望をもてるように

2, 3年生であっても、最初の学級指導では、担任の願いや学級づくりの方針を伝えましょう。担任として、こういうクラスにしたい、こういうことを大事にする、これだけは許さないなど、学級づくりに期待感をもてるよう、希望や願いを明るくさわやかに伝えたいものです。

### 話し合いで学級づくりを（4月の学級活動）

早く決めることよりも、共通理解し納得して決めることを大事にしましょう。

#### 1 係・当番活動のやり方を話し合いで

4月は、学級活動で係を決めたり、当番活動のやり方を決めたりする機会が多くあります。生徒の昨年の経験を出してもらいながら、自分たちの学級にあった係や方法を話し合っ

#### 2 トラブルが起きたら話し合いで解決を

みんなで決めた活動を実行する中でトラブルが起こります。学級でのトラブルは付き物。大事なことは、そのトラブルを自分たちの話し合いで解決する経験をすることです。時間はかかりますが、その経験を積み重ねた学級は、よりよい学級を求めて主体的に取り組む集団へと育っていきます。